

アートな川越

60



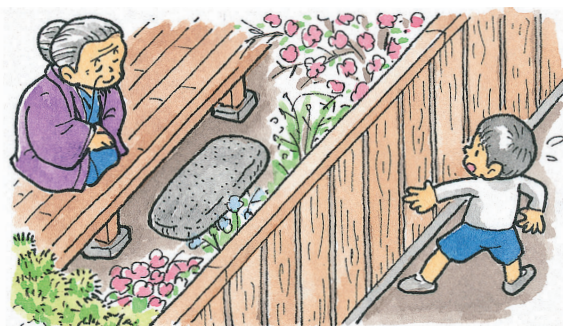
明治二十六年（一八九三）、まちの三分の一以上を焼失した川越大火。焼け残ったのは、いくつかの蔵造りの建物でした。その後川越の商人は、耐火性に優れていたこの建物を、競うように建築しました。川越の象徴の一つである蔵造りの町並みは、こうして生まれました。

この町並みの夜を照らす新しい街路灯が、昨年完成しました。デザインは、一番街商店街の皆さんを中心に検討し、決定しました。まるで、昔からここにあったかのように、蔵造りの街にとけ込んでいます。雨が降ると柔らかく路面に反射した光が、夜の町並みをより幻想的に演出します。一番街の街路灯は、そのデザインが高く評価され、「彩の国景観賞2007」を受賞しました。

川越ならではの
礼儀作法など

老婦人

小江戸のならわし・最終回



七十年前、私が小学生になったころの話です。表通りには多くの蔵造りが並んでいました。しかし、一歩横道に入るとふつうの家や空き地があり、子どもにとっては格好の遊び場になっていました。遊んでいる途中に、よその家の目隠し塀に向かって小用を足していたときのことです。ふと気がつくと、塀の向こう側で老婦人が庭木を眺めていました。見つからないように小さくなっていると、「もうお一人でおできになりますか。大きくなられましたね」と声を掛けてくださいました。その時は逃げ出しましたが、子どもにも美しいことばを使う老婦人に、大人の品位を感じました。

＊文化財保護協会顧問・宮岡正一郎さんから伺った話を、広報室がまとめました。

表紙の地図



◎ 広報川越 1170

発行日／平成20年3月10日（毎月10日・25日発行）
発行／川越市 〒350-8601埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>
編集／広報室 TEL049-224-8811（代表）・FAX049-225-2171
印刷／旬新公社